2024年度日本近現代文芸研究会

漫画・アニメ特集

・目的

アニメ・漫画の研究は比較的新しい学問分野であるため、未だそれらの研究の蓄積は浅く、研究方法は確立されていない。本研究会は主に文学や社会学、美術などを専門にしている大学院生を中心に、各々の専門や自由な興味関心に基いて独自の視点からアニメ・漫画を解釈する。

・運営状況

対面・Zoomによるハイブリッド形式を用いて開催。
2024.2月～2025.1月、6回
春学期（2～8月）：研究内容の報告と論文執筆。
秋学期（9～1月）：春学期の議論と編集会議。

・総括と来年度の展望

各国の人文学研究分野が衰退している今日、本研究会は引き続きさまざまなテーマや特集を通して特定の研究領域・研究対象には縛られないフレキシブルな文化研究の場の確保を目指している。今年度の研究会活動を通して文学と他の研究分野を横断する学際的研究の試みが達成されたといえる。

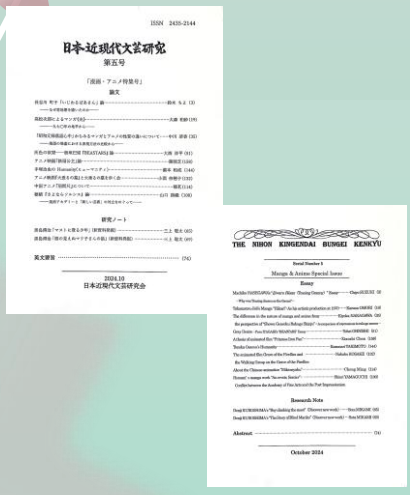
2025年度は、文豪森鷗外の妻である森志げの作品をテーマとして研究会活動を進めていく。

・研究内容

- ♠ 手塚治虫のHumanity(ヒューマニティ)
- ♡ 灰色の欲望――板垣巴留『BEASTARS』論
- ♣ 高松次郎によるマンガ《光》
- ◇ 長谷川町子「いじわるばあさん」論
- ♦ アニメ映画『火垂るの墓』と火垂るの墓を歩く会
- ♤ 穂積『さよならソルシエ』論
- ♥ 「昭和元禄落語心中」からみるマンガとアニメの性質の違いについて
- ♧ アニメ映画「鉄扇公主」論
- ♠ 中国アニメ『眉間尺』について

・機関誌の発行

『日本近現代文芸研究』第5号「**漫画・アニメ特集号**」（2024年10月）



代表：HE Shulin
副代表：小酒奈穂子
gr0271sv@ed.ritsumei.ac.jp

MANGA & ANIME SPECIAL ISSUE